

印度藝術總覽

A GENERAL VIEW OF  
INDIAN ARTS



第二卷 第二十號

大正  
Issued by The Society for Study of Indian Arts



始



# 印度藝術總覽

A GENERAL VIEW OF  
INDIAN ARTS



第二卷 第二十輯

大正  
Issued by The Society for Study of Indian Arts

購求

「印度藝術總覽」内容一覽

(第一卷第十二輯附)

東京	東京美術學校	東京	東京美術學校
東京	田島常三殿	東京	田島常三殿
東京	正木直彦殿	東京	正木直彦殿
千歳	成田山新勝寺殿	千歳	成田山新勝寺殿
東京	野生司香雪殿	東京	野生司香雪殿
東京	多賀道吉殿	東京	多賀道吉殿
東京	信濃川護立殿	東京	信濃川護立殿
神奈川	津端道彦殿	神奈川	津端道彦殿
東京	沼田才治殿	東京	沼田才治殿
東京	寺崎廣載殿	東京	寺崎廣載殿
東京	中野觀象殿	東京	中野觀象殿
東京	小林辨吉殿	東京	小林辨吉殿
東京	青木新太郎殿	東京	青木新太郎殿
東京	岡田三郎助殿	東京	岡田三郎助殿
東京	伊尾準殿	東京	伊尾準殿
印度	タマール殿	印度	タマール殿
名古屋	大石三千穂殿	名古屋	大石三千穂殿
東京	岡野敬遠殿	東京	岡野敬遠殿
東京	山上曹源殿	東京	山上曹源殿
東京	櫻井義肇殿	東京	櫻井義肇殿
名古屋	瑞超殿	名古屋	瑞超殿
東京	勝田蕉琴殿	東京	勝田蕉琴殿
東京	小笠原長生殿	東京	小笠原長生殿
東京	井上利正殿	東京	井上利正殿
東京	荒井寛方殿	東京	荒井寛方殿
東京	前原藤一郎殿	東京	前原藤一郎殿
千葉	桐谷洗鱗殿	千葉	桐谷洗鱗殿

第二卷第七輯乃至第十二輯目次

三、愛	莫臥兒朝繪畫	堅山南風君藏	彩色木版
三三、大象調伏	佛陀伽耶發掘石彫	桐谷洗鱗君藏	寫真版
三三、印度更紗(四)	ラクノ一産	野生司香雪君藏	彩色木版
三四、女人像	古代石彫	カハルカツタ博物館藏	寫真版
三五、觀音	佛陀伽耶發掘石彫	カハルカツタ博物館藏	寫真版
三六、クリシェナ	莫臥兒朝繪畫	堅山南風君藏	彩色木版
三七、寶冠佛	彌多王朝石彫	カハルカツタ博物館藏	寫真版
三八、清淨	御新古畫	桐谷洗鱗君藏	寫真版
三九、菩薩	エロラ洞窟石彫	堅山南風君藏	寫真版
四〇、喇嘛教神	西藏古畫	小笠原長生君藏	寫真版
四一、畫を撮ぐ女	印度現代繪畫	寫真版	寫真版
四二、諸菩薩	カトリ洞窟石彫	桐谷洗鱗君藏	彩色木版
四三、印度更紗(五)	ラクノ一産	堅山南風君藏	彩色木版
四四、觀音	彌多王朝石彫	カハルカツタ博物館藏	寫真版
四五、マゾラ一塔	マゾラ一祠堂門塔	印度藝術研究会寫藏	寫真版
四六、はこら	莫臥兒朝繪畫	桐谷洗鱗君藏	彩色木版
四七、淫婆	エロラ洞窟石彫	堅山南風君藏	寫真版
四八、苦行	アジヤンタ一壁畫	桐谷洗鱗君藏	寫真版
四九、菩薩	佛陀伽耶發掘石彫	カハルカツタ博物館藏	寫真版
五〇、祠堂内面	マゾラ一祠堂殿入口	印度藝術研究会寫藏	寫真版
五一、與願印佛陀	アジヤンタ一壁畫	桐谷洗鱗君藏	彩色木版
五二、三神一體像	エレフアンタ洞窟石彫	印度藝術研究会寫藏	寫真版
五三、印度更紗(六)	ラクノ一産	別所幸吉君藏	彩色木版
五四、女神	古代石彫	カハルカツタ博物館藏	寫真版
五五、歌舞供養	佛陀伽耶發掘石彫	桐谷洗鱗君藏	寫真版
五六、公子	莫臥兒朝繪畫	桐谷洗鱗君藏	彩色木版
五七、太子出城	健陀羅發掘石彫	カハルカツタ博物館藏	寫真版
五八、歌舞供養其二	佛陀伽耶發掘石彫	桐谷洗鱗君藏	寫真版
五九、淫婆	古銅鍍金	伊尾準君藏	寫真版
六〇、マゾラ一寺	印度教寺院	印度藝術研究会寫藏	寫真版

名家藏所品載掲

(同不詳載)

第七卷二第

三三、愛  
三三、印度更紗(四)  
三四、女人像  
三五、觀音

第八卷二第

三六、クリシェナ  
三七、寶冠佛  
三八、清淨  
三九、菩薩  
四〇、喇嘛教神

第九卷二第

四一、畫を撮ぐ女  
四二、諸菩薩  
四三、印度更紗(五)  
四四、觀音

第十卷二第

四五、マゾラ一塔  
四六、はこら  
四七、淫婆  
四八、苦行  
四九、菩薩

第十一卷二第

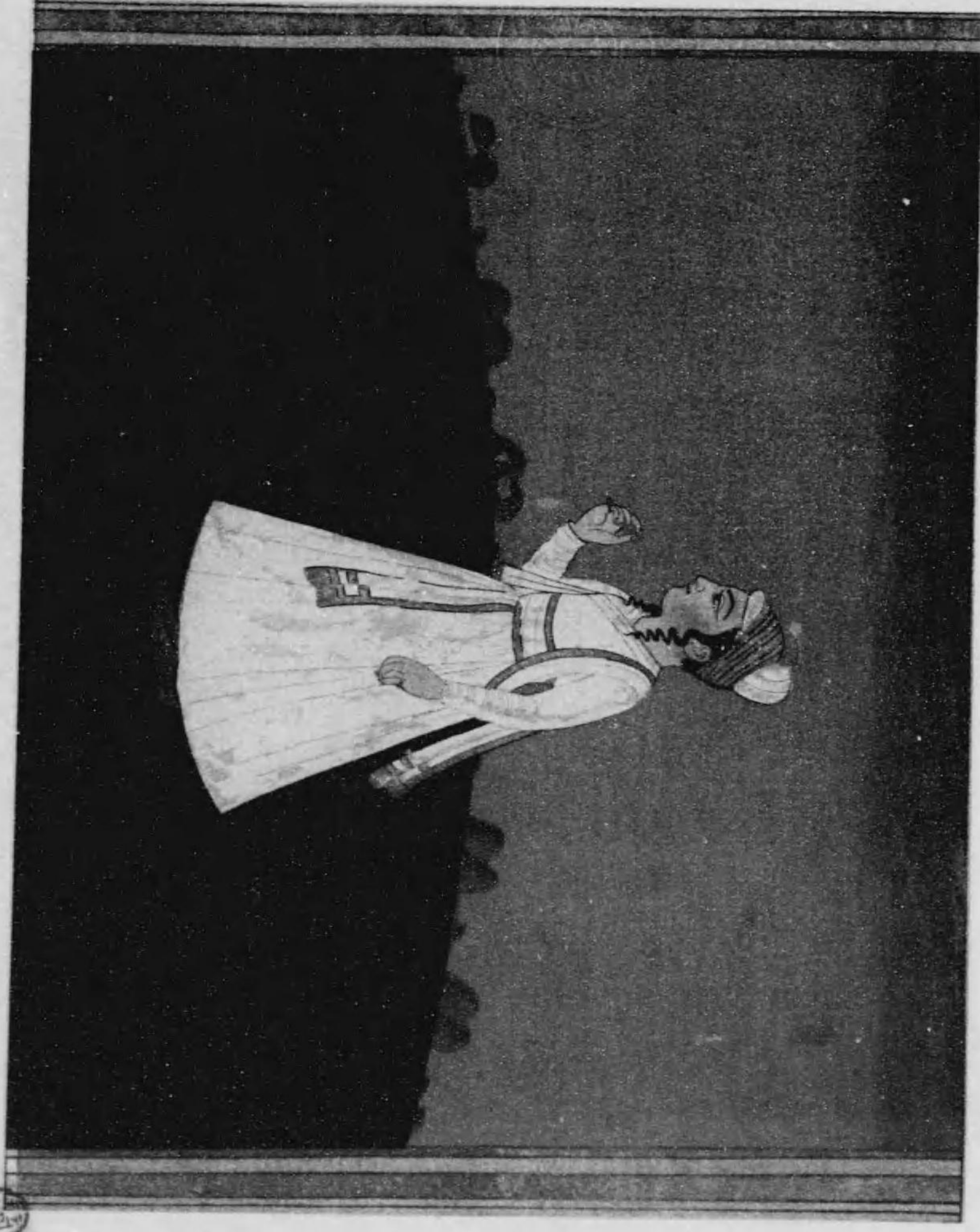
五一、與願印佛陀  
五二、三神一體像  
五三、印度更紗(六)  
五四、女神  
五五、歌舞供養其一

第十二卷二第

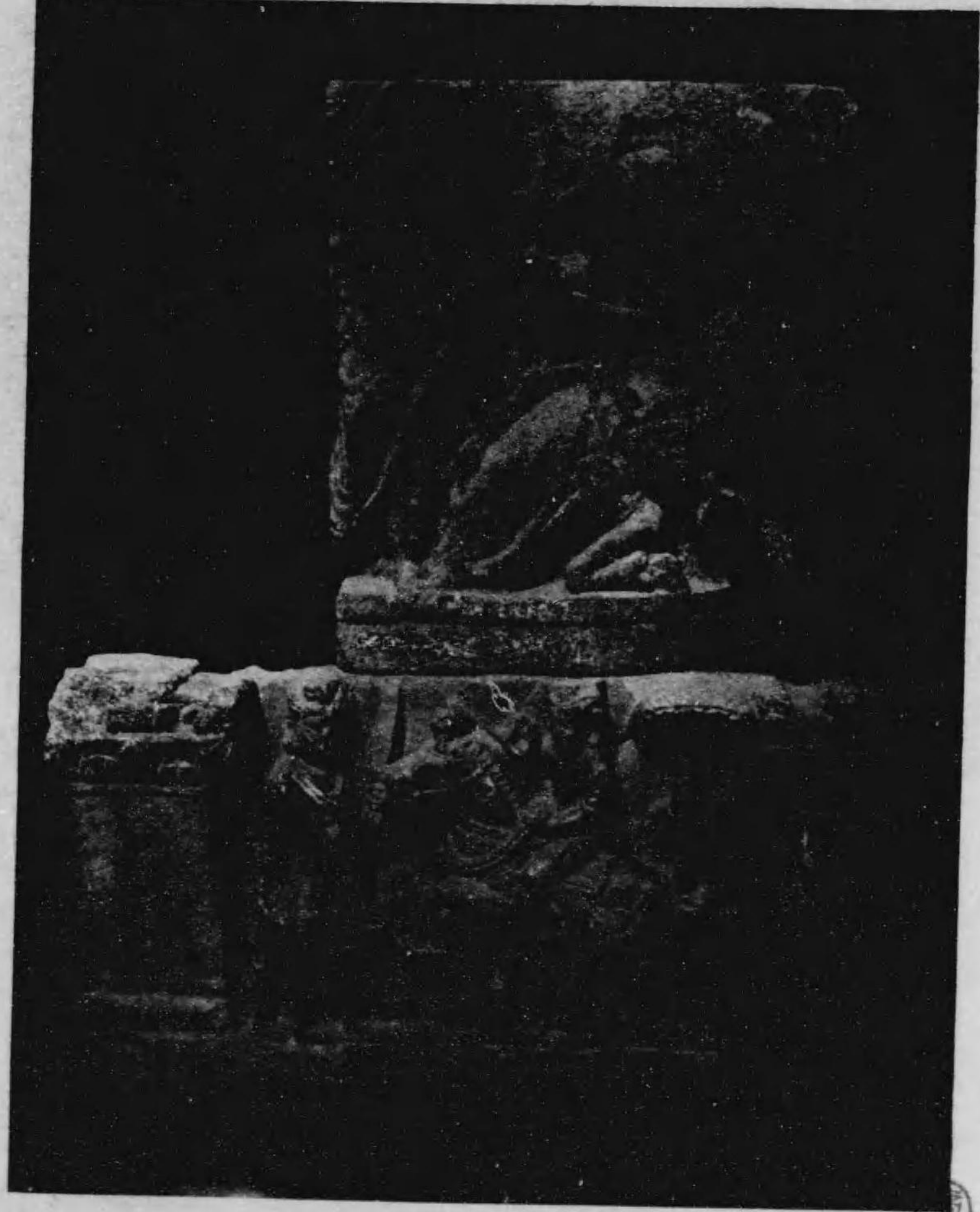
五六、公子  
五七、太子出城  
五八、歌舞供養其二  
五九、淫婆  
六〇、マゾラ一寺

大正十二年九月二十日

印度藝術研究会

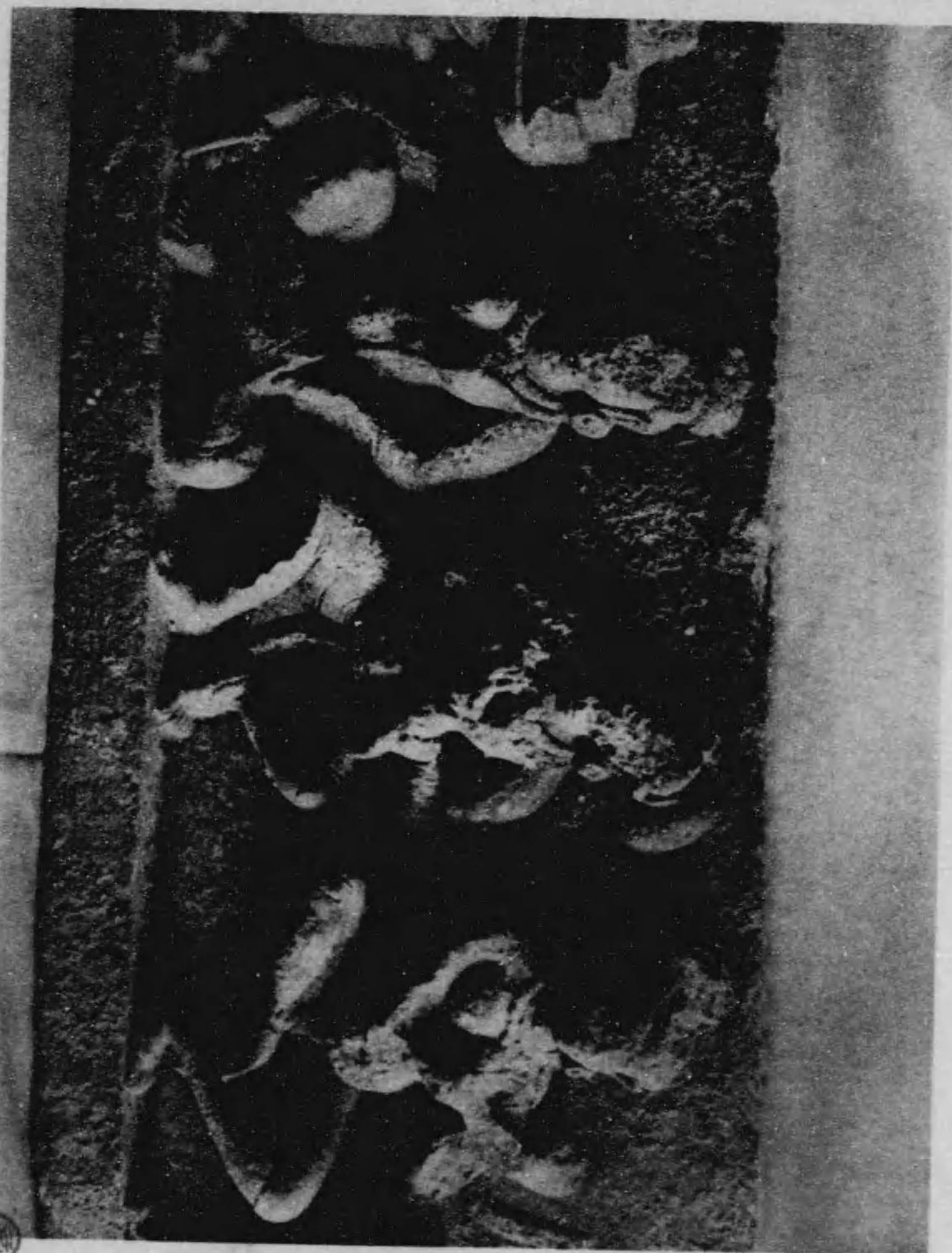


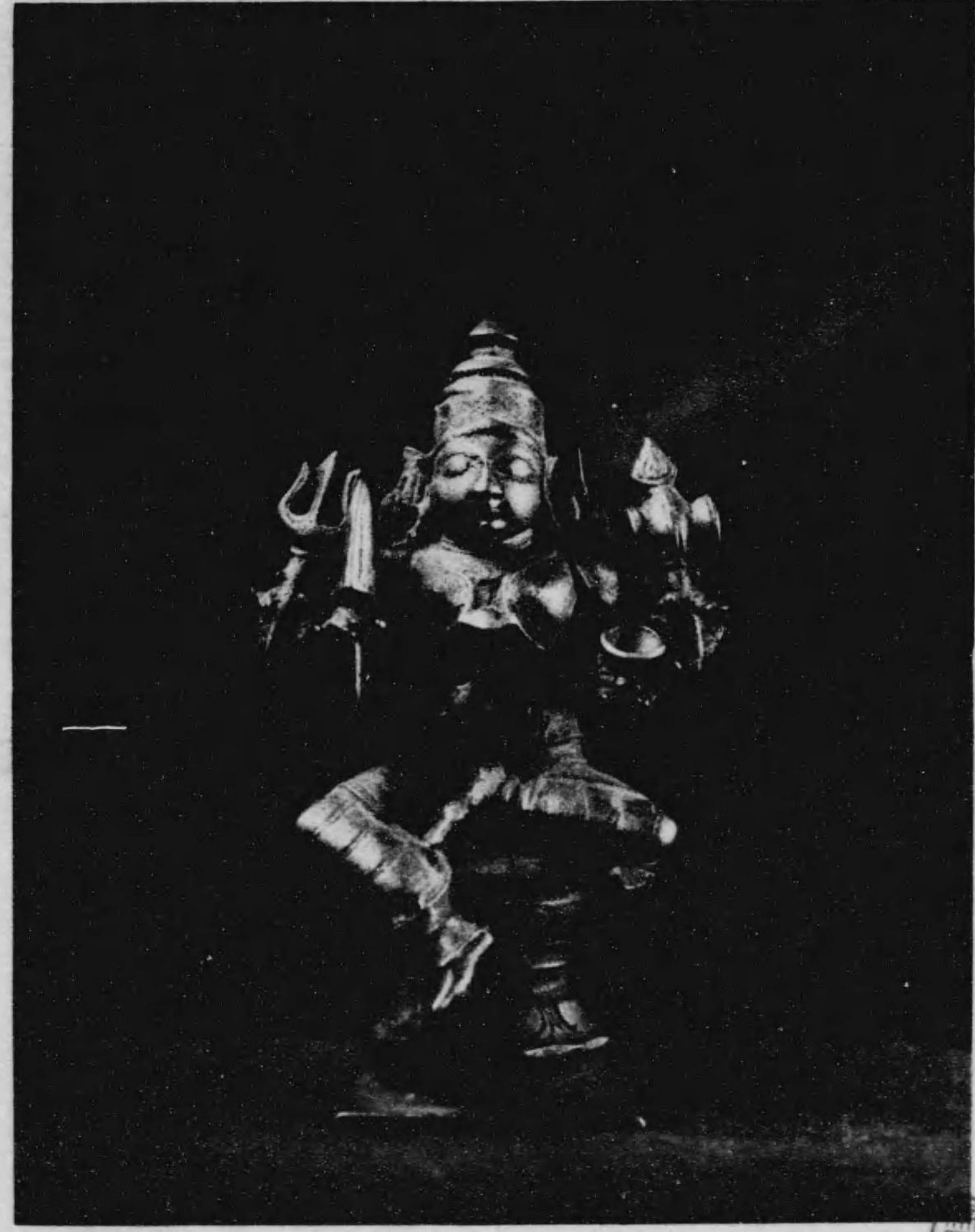
Small circular stamp or mark.



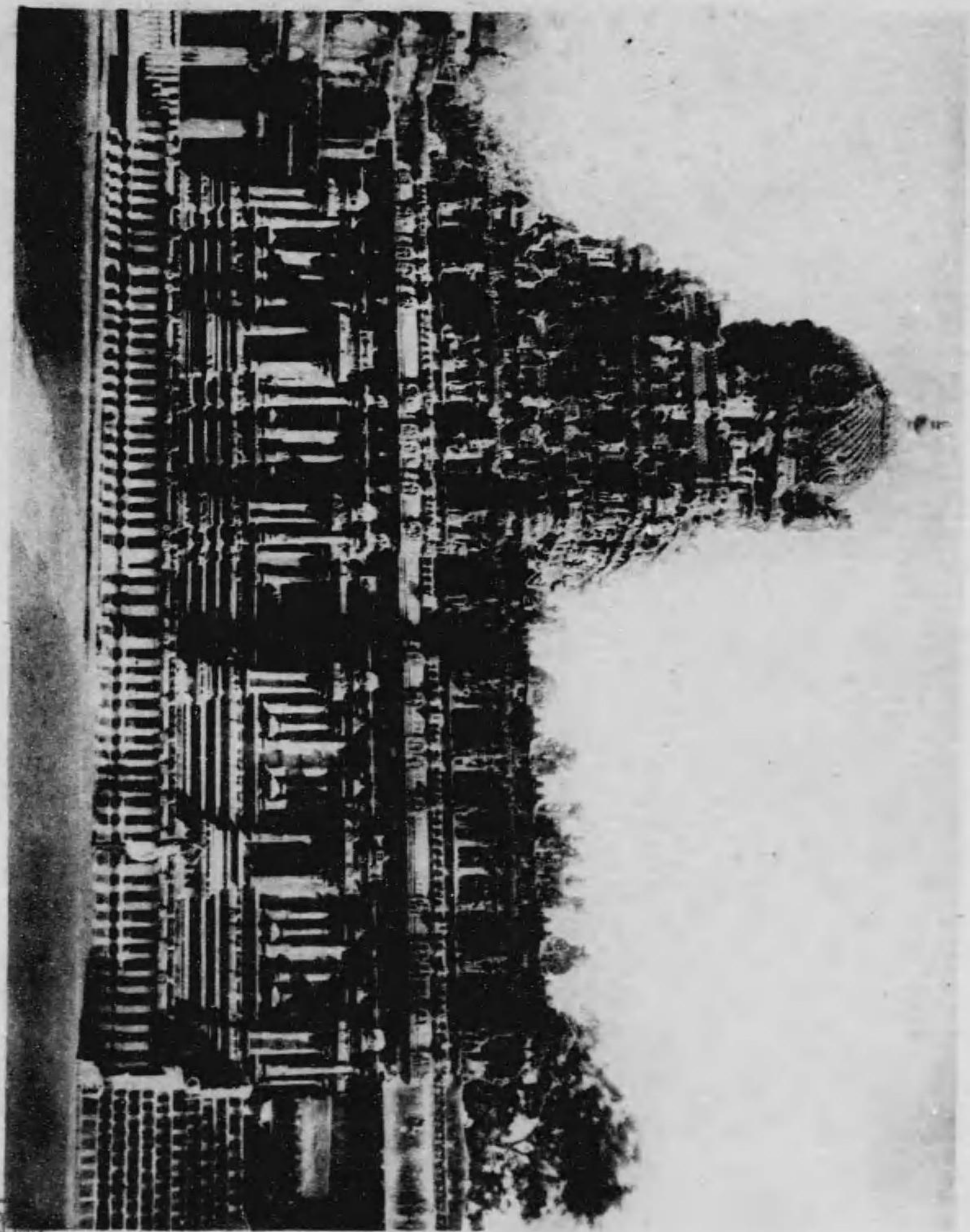
66





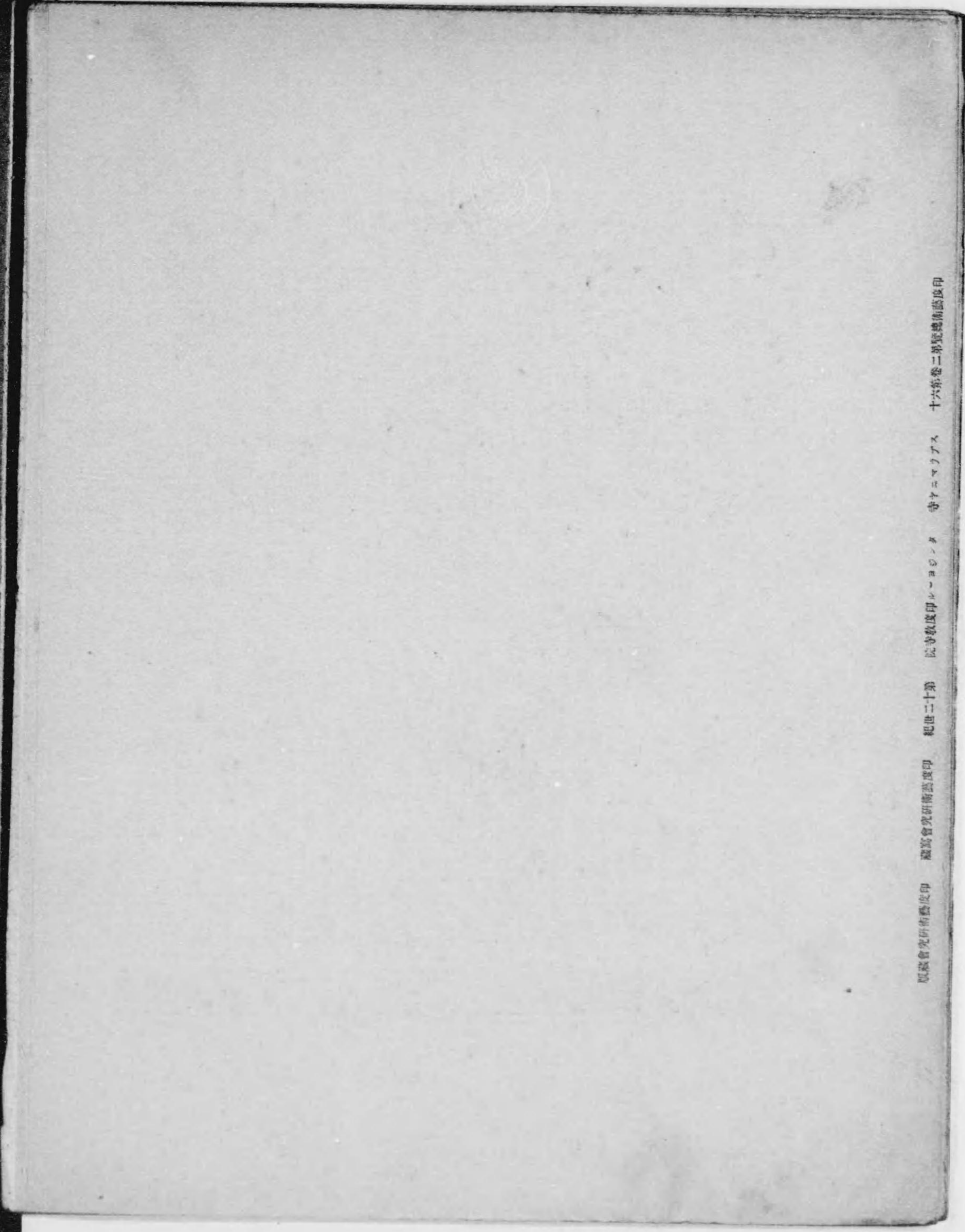
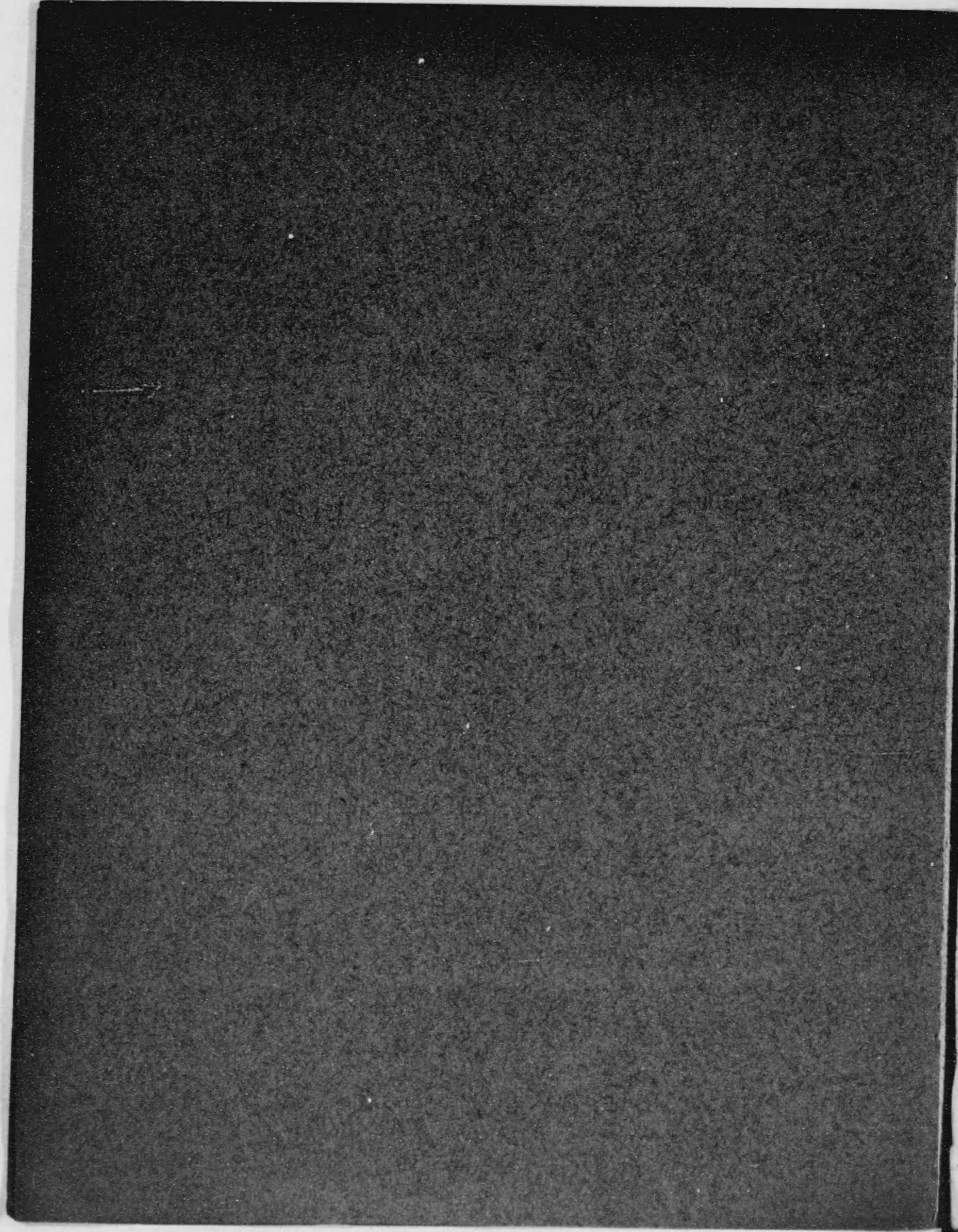


取藏會究新舊影度印 藏書藏院各稱 紀世五第——藏中紀世四第 御玉多編 攝錄印加陀抄 (二其)養供舞狀 八十五第卷二第覽總攝畫度印



© 1915





原書會光研書標皮印 藏高會光研書標皮印 紀世二十第 院寺教護印ルヨロノキ 寺ヲニモリナス 十六第卷二第覽編用函皮印

印度藝術總覽第二卷第十二輯目次及說明

第五十六 公子 (繪畫)

第十六世紀中葉乃至第十八世紀莫臥兒朝作叙事詩向華古畫師畫之一。詩中男女主人公の深遠流離の一面を描けるもの。土耳其斯坦より印度に進入せる莫臥兒人(アヘメドリア人)は美術と自然とに對し其深奥の興味を有し、加ふるに大帝アクバルの保護に因りて莫臥兒繪畫の發達を見たり。従つて其繪は圖にも見得るが如く、貴族的にして、又自然な憧憬し、又民族の歴史的な事情に基き個人の性格描寫に於て特長を有す。

第五十七 太子出城 (繪畫)

佛陀羅繪畫品。紀元前一世紀乃至第一世紀の作。悉達多太子諸位を畫て、迦提羅衛城を出づる光景を刻む。本卷第十二説明参照。上圖は太子が城を出づるや、白馬を跨ぎ直ちに太子の足を額に三度載せて崇敬の意を表する光景にして、其他御者車匿等之れに従ふ。下圖は太子が健捷に乗じて宮門を出づる所。前に立つは護衛神執金剛、馬足を支へ、寶蓋を差懸くるは諸天人なり。

第五十八 歌舞供養 (其二) (石版)

佛陀羅繪畫品。第四世紀中葉乃至第五世紀初葉多王朝初期の作。本卷第五十五所載の連續部面。一人の女は太鼓を打ちて舞ひつゝあり、他の二人の女は其音に合わせて盛んに踊りつゝあり。印度の舞は日本或は西洋のそれと異り、大なる活動な爲すや、非常に靜かなるうちに、手指足指を微妙に働かせて濃厚なる表情を現はすは世界獨特にして、頗る神秘的の感じあり。本圖彫刻にも其の氣分の溢るゝを見る。

第五十九 淫婆 (繪畫)

印度教神像。古銅鑄。年代未詳。印度教に於ては淫婆は穢染活動の神として崇拜せられ又時には限りなく憂ひ深き容貌に

て表はさるゝ事あるも、總じて恐ろしき接近し難き神なり。又變化、存續、内旋の意味に於て舞踏者として考へられ、又時には大銀行者の如く冥想に耽る神とも考へらる。本作は手に食物の壺を持ち、劍を握り、媚々たる燃火を携ふ等、其の破壊活動の意味を表現せるものたるは明かなり。其顔面如何にも冥想的にして、且つ口唇堅く締まり、非常に落着きたる態度のうちに、一度び活目せんか、當に大活動大破壊を行はんとする風貌あり。

第六十 スプラマニヤ寺 (建築)

タンジョール印度教寺院。第十二世紀の建造。此寺はマーマツアラム海岸に在る寺院。並に同じタンジョール及びガイヤンダアラムの大寺院と共に南方印度に於ける最古の寺院にして、建築様式は所謂ドラヴィダ式(南方印度式)に屬し、其の建築の約合宜しきと、多くの微妙なる彫刻其他の裝飾を以て披はるゝを以つて有名なり。

疊紙意匠 靈鳥 錫崙島古代模様

大正十二年九月二十日印刷  
大正十二年九月廿五日發行

不許複製

編輯人 伊 尾 寛 治  
印刷所 東京市小石川區金富町十四番地  
發行所 東京市小石川區金富町十四番地  
印度藝術研究會印刷部  
印度藝術研究會  
推普口産東京四三六八五番

333  
87

終